

なんだかかんだか、よう書くようになってきたなあ。学生時代は作文とか大嫌いやったのに書いてしまうなあ。ままま、今回もお駄文に付き合ってもろて時間を奪う事にしようかねえ。では、よろりんこ。

今回は泥棒の話にします。ええ、そうです、盗人です。実はだいぶ昔からこの私、盗みを働いてきました。いつよりと記憶がない分、おそらくは物心ついた頃より手を染めておったのでしょ。

少し昔話をしましょう、小学校の時分です。学校終わりには、よく隣のKちゃんの家遊びに行きました。よくというかほぼ毎日行っていたと思います。Kちゃんも、宿題やら、お手伝いやらないといけないのに私と遊んでくれていました。記憶の限りでは、おそらくこの時、盗みを働いていたのだと思います。あまりに自然でわかりませんでした。でも、Kちゃんの『時間』を盗んだのだと私は気づきました。Kちゃんも気づいてはいなかったはず。時折めんどくさそうにしてましたが、大体は楽しそうにしてたので彼も気づかなかったでしょう。自分にも相手にも気づかれない手口で事を運ぶ、まさに天の才の片りんがあったのは間違いないでしょう。その後は周りの人間達の時間を盗みまくりました。盗みのコツは自分も相手も楽しませるという事です。誰一人気が付かず足も尻尾も出ませんでした。おかげで豪遊できたこと記憶しております。

高すぎる能力は時として悪魔のような所業に手を染める手助けをしてしまうこともあります。小学3年生の時でした、学校の授業で将来の夢を書く課題が出ました。同級生たちはお菓子屋さんやケーキ屋さんやスポーツ選手とか、あとはわからんとか、子供らしい事を書いておりました。私はこう書きました「ユリをやってお金をもうける」と。しがないうり百姓のセガレだった私はあろうことか10歳にも満たないにも関わらず、家業を継ぐ宣言をしてしまったのです。当時必死に仕事をしていた両親はこの宣言を見て非常に喜んだと申しております。そうです、またやっしまいました、あろうことか肉親からも盗みを働いてしまうのです。彼らから掠め取ったのは『親の期待』でありました。やはり彼らも気づかなかったでしょう、気づかなかったがゆえに永遠と盗み続ける事が出来ました。事あるごとに盗み続け、なんなら今も盗み続けております。貧乏百姓の小セガレが忙しい家で生き残るためにはこの盗みは非常に有効な手段でした。しかしながら身内に手をかけるとは鬼畜の所業だと自分でも思う所があります。それができてしまうがゆえにやっってしまう、高すぎる能力は時として道を誤る事もあるのです。

少しと言っておきながら、もう少し続けましょう、次は小学5年生です。当時の私は学校に行きたくない症候群の子供でした。通称登校拒否児童。一般的な家庭であれば何とか学校に行かせようと子供になんらかのアクションを起こすのですが、私の家庭は多忙な農家であったためアクションを起こすのが難しく、超一流の盗人である私に親の期待を盗み続

けられた両親は私を学校に行かせる事が出来なかったようです。おかげで昼まで寝られました。最高です。寝る盗っ子はよく育つとはこのことです。しかし、樂園には長くいられませんでした、学校からの追手がかかったのです。当時の担任は新人でデビューしたての若い男の先生でした。まだまだ不登校対応は発展途上であった教育界ではどのような対応をすべきか難しい判断を現場に強いてしまいがちだったようです。結果、新人先生は家庭訪問を行う事になります。どんな顔で会えばよいか切羽詰まった笑顔で彼はやってきました、突然やってきてこの私にプレッシャーを与えるとは担任の先生は化け物か。一言も交わさずに引いて逃げるその瞬間でした。こんな時でも出来てしまう、もはやナチュラルな盗み癖。この時頂いたのは『よう分らんけど男だったらとりあえず行ってみる姿勢』でした。まさか登校拒否児に盗まれるとは考えなかったでしょう。まんまとやってやりました。この姿勢のおかげで再登校。とまでは行きませんでした、大きくなった後に使うことになります。疎遠になった仲が良かった友達や気になる女の子、そんな人たちに対してこの姿勢は効力を発揮しました。おかげで再会を喜ぶこともできました。ただ、残念ながらフラれる事も多いので正直あんまり役に立ってない気がします。当時の新人先生にそっと返品してしまおうか。やや盗んだ事を後悔しております。あ、でもこの姿勢を使って、やいろ鳥の会とつながりを持つ事になったのは一つの事実ではあります。

はい、ここまで読まれたあなた、そうですね。盗んでいるもんが金目のものではないですね。分かっておりますとも。では、普通の泥棒は、なぜ金目のものを盗むのか分かりますか？彼らの多くは自分のためだと思っていることでしょう。社会的に見れば悪い事ですが、経済的に見ればどうでしょう、資産の持ち主が変わり、流動性が高まり、必要とする事業や人に資本が届く可能性が上がるわけです。まるで国が法律という言い訳で税金を搾り取り再分配しているかのようです。規模は違うでしょうが普通の泥棒がやっている事は経済益なわけでトリッキーな方法でフローを増やしているだけなのです。金を使うならば、それらはすべからく自分のためだけにならないという事です。残念ながら私から見れば、1流の盗人の私から見れば彼らは所詮2流3流でしかありません。我欲！そう、純然たる我欲！私が生きるために私が価値を認めるモノを盗む！それこそが1流の盗人の条件でなければなりません。人の為に盗むなど義賊まがいの者なんかは政府やNGO、NPOにでも任せれば良いのです。

少々時計の針をすすめて私の幼少期から経営者の私まで飛ばしましょうか。我欲の盗人の力が思う存分発揮されるのは自由が効く立場になればなるほどです。

高知県では生姜の生産が全国有数で土佐市でも盛んに栽培されています。私も小さい頃から生姜畑の間を通り通学しておりました。何年も何十年も。。。それはもう生姜の匂いが嫌いになるには十分なほどです。長い時間生姜農家を見ていると、チャンスは自然と訪れるのです。日々の作業員の動きを観察していると誰でもできそうな単純な繰り返し作業をする部隊や機械作業を専門にする部隊、それらを統合管理する指示者などが確認できました。更には建屋にて洗浄乾燥梱包する工程、それらに付随する運搬業務、それぞれに必

要な資材、人材。観察するだけで多くの事が見えてきます。気が付けば、『農業経営のノウハウ』を盗んでおりました。これは確実にユリ農家の経営に活かされており、本業をサボって他の農家を観察するのも悪くありません、いや本業は盗人でしたね。

生姜農家の例では見えている事から盗み出すことができました。職人の世界でも技術は目で盗めなどという言葉がありますが、まさしくそれでしょう。経営者という立場ならば比較的自由に動けることで様々な物を観察することができます。注意深く観察すれば盗みもたやすくなります。盗人の極意とはすなわち自由なのです。時間的に自由、経済的に自由、自由な人間関係、精神的な自由、これら多くの自由が無ければ盗人の極意を得る事は難しい事でしょう。常に社会とは一線を引き、空気を読まず、約束を守らず、遅刻常連、頭のなかは楽しい事しか入っていない、ズレてるしちょっとオカシイ人、このような人間は盗人向きであります。

そうだ、そろそろ批判にも応えておきたいですね。例えば、「あなたの言う盗みとは学習に置き換える事ができるのではないか」「盗むというより他者から処世術や人生訓を学び取っているのではないか」「仰々しく盗みなどと言わなくとも誰でもやっていることではないか」。はい、そういう人もいるでしょう。しかし、私は盗人なのです、盗みを働いてきたと言いたいのです。ええ、言わなくてはいけないでしょう、その理由を。

かつて、この地、土佐は中央より遠く離れ、山と海のみという厳しい自然に囲まれた天然の牢獄として咎人の流刑地でした。多くの罪人が送り込まれこの地で生きてきました。生き抜いてきた流れは地侍、一領具足、下士郷士となって現代まで流れ着いていると考えます。そう、つまり私はその末裔という事です。もはやDNAにまで刻み込まれた反骨、アンチソーシャルな意思はちょっとやそっとでは消せたものではありません。そんな咎人の末裔が、勉強させてもらったの、学ばせてもらいましたの、言えるものでしょうか。否、そんなもの盗人のプライドが許せない！常に在野であり、反学校であり、野良犬のまま、いつまでたっても甘えんぼで、薄汚れた着物で、二日酔いの朝には朝焼けと胸焼けと共にゲロを吐く。こうでなくてはならないのです。「勉強大好き、先生おしえてくれてありがとう」こんな奴にはなれない、無理なのです。

少しだけその姿勢を語りましょう。新型コロナで社会全体が自粛ムード一色となり街中すべてがマスクマンになってしまった頃でした。よく行くスーパーではほぼ全員がマスクをしており会話している人もおらず、まさしくディストピアのようでした。テレビも政府も手洗い、換気、マスクを延々と言い続けており、それが人々のあたりまえの空気になっていくのが窮屈でしかたなかったです。この窮屈さはまさしく制服で学校に通わなければならない時となんら変わりません。盗人としてはこのままマスクをすることは窮屈な学校に戻る事と変わらないので、私はノーマスクで生活することにしました。見る人見る人、皆がマスクをしているので素顔の私を見ると少し驚いたり眉をひそめたりしています。まあ、マスク越しなので多分ですが。ですがここで怖気づいてはいけません。私には盗人のプライドがあるのです。ですので目が合った人には口元に微笑みを浮かべ微笑を返すこと

にしました。まるで迷子のキツネリスを手なずけるように。菩薩のごとき振る舞いでさまざまな店にノーマスクで入りましたが1度追い返されただけでした。大体の人は微笑み返すと目を合わせられなくなり私に注意もできなくなるようでした。やはり私から出ている溢れんばかりの友愛の前には、もはや否定など出来なくなるのでしょう。今なら攻撃色のオームの群を止められる気がしてなりません。まあ、やべえヤツだと思われているかもしれません。。。

コロナの恐ろしさを理解して無いわけではないです。否が応でも情報は入ってきましたから。私は病気のリスクと日常生活の煩わしさを天秤にかけ病気のリスクを取り、不自由な生活を捨て、自分の自由と幸福の可能性にかけてました。結果的には幸運にも病気にならずに煩わしさを避け、生活できました。盗人として生きるとはこういう姿勢ということなのです。他がどうであろうと自分が幸福に生きていくということなのです。死なないように生かされていれば幸福ではなく、くたばるかも知れないけど幸せを取りに行くことが幸福になる事だと思います。コロナ禍において人と会わない生活は心疾患や自殺者の増加要因ではないかとの報道がありましたが、あながち私の考えも間違っていなかったのかもしれない。そしてコロナ真っ盛りの時に私と似た考えの者と飲みに行くことができたのは盗人として幸せなことでした。せっかくなのでコロナ禍からも盗んだ事にしておきましょう。『盗人の自信』を。

だいぶ長々書いてきましたが、そろそろお終いにしたい気分です。真面目に不真面目がモットーの私ですが、やや真面目に振りすぎています。最後の仕上げに取りかかりましょう。最後は盗人の未来についてにしておきましょう。

今まで、あまりにも多くの物を盗んできました。今回紹介したのはほんの一部にすぎません。そして最後には『盗人の自信』まで手に入れてしまいました。何を盗んでもへまをして捕まった事ありませんし、見つかってもおりません。なんなら盗まれた事に気付いてすらいないでしょう。この先私はいったい何を盗むのか、これまで全く予想なんてしなかったのですが、気付いてしまったのです。そして気付いたがゆえにこの文章を書いているのです。どのような過程を辿るにしても必ず到達する財宝、それは『人の心』です。私はこれまで盗んできた物を使い多くの人に良い影響を与えてきました、与えすぎてきたと思います。さすれば多くの方に感謝されるでしょう、仕事も任されるに決まっています、頼み事も聴きましょう、もちろん飲みにも付き合ひましょう、愚痴を聞きますとも、余ったユリを配りまくりです、時にゴミ拾いも。もう皆に愛されすぎてしまう未来が見えるのです。こうなると人気爆発、スターよりスター、教祖より教祖、つまり盗人の神になってしまうのが分かりきっています。私はピンと来たのです。多くの人々の心を奪う力を手にした人間を当局がほうって置くはずがありません。しかし、私は足も尻尾も出すわけにはいかない、そして確かに盗人として華麗にすり抜けた半生を残すべきだと、後続同志に伝えておくべきだと。

勘のいいあなたならば気付いているかもしれませんね。現在これを書いているのはオランダ、スキポール空港です。これからは狭い日本より飛び出でて世界を股にかける大泥棒になるつもりです。その前に、事もあろうか私の心を奪ったロシアのイリーナに会いに行くつもりです。それでは皆さんスパシーバ。

(了)